

**平成 29(2017)年度**

**北海道・札幌市政策研究みらい会議  
活動実績報告書**

---



## 目次

---

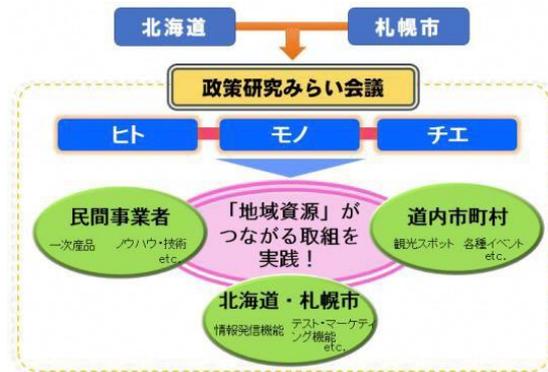
1	北海道・札幌市政策研究みらい会議とは	1
2	平成29年度活動経過	2
3	会議開催実績	3
4	活動実績	4
	(1) わがマチ野菜を応援しよう	4
	(2) 温故知新！Hokkaido 偉人探索プロジェクト	7
	(3) 続・クラフトビール王国北海道への道	9
	(4) 北海道コンテンツ事業研究プロジェクト	13
	(5) 新たな食文化『シメパフェ』の仕掛けを学ぶ	17
	(6) インターナショナル・オープンデータ・デイ 2018 札幌	21
5	今年度の活動を終えて	23

# 1

## 北海道・札幌市政策研究みらい会議とは

「北海道・札幌市政策研究みらい会議」（以下、「みらい会議」）は、北海道知事と札幌市長が意見交換を行う「北海道・札幌市行政懇談会」において合意され、平成25年8月に設置された、北海道と札幌市の若手職員で構成する分野横断的なプロジェクトです。

『北海道と札幌市の未来を担う人的ネットワークの拡充』、『自由な発想による「北海道のより良きみらい」に資する地域政策の企画・立案や活動の推進』を目的として、様々な取組を行います。



### ○ 運営方針

- ・地域資源をつなげる複数分野の取組を、自ら実践することで、「資源価値の向上」や「交流人口の増加」といった北海道の発展につなげる可能性を探求する。

### ○ 平成29年度（第5期）構成メンバー

北海道（6名）	
総合政策部政策局	宮武 宏企
総務部法務・法人局学事課	大木 直都
環境生活部環境局エゾシカ対策課	福田 武博
保健福祉部健康安全局国保医療課	玉木 美帆
水産林務部林務局林業木材課	上田 真奈美
建設部土木局河川砂防課	宮田 加奈子
札幌市（7名）	
まちづくり政策局政策企画部企画課	鈴木 陽介
市民文化局地域振興部区政課	大道 巧
市民文化局市民自治推進室市民自治推進課	高橋 正輝
保健福祉局保健所医療政策課	西澤 美幸
東区保健福祉部保護四課	阿部 かほり
白石区保健福祉部保護三課	鈴木 淳仁
選挙管理委員会事務局選挙課	槌谷 翼

# 2

## 平成 29 年度活動経過

平成 29 年度の活動は下表のとおりです。

平成 29(2017)年	
4月～5月	メンバー選定
5月24日	第1回会議
6月23日	第2回会議
8月31日	第3回会議
9月8日	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イベント開催</div> チ・カ・ホで出会う、Hokkaido の偉人～北海道の名付け親、松浦武四郎に出会う～
9月11日	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イベント開催</div> チ・カ・ホで出会う、Hokkaido の偉人～開拓使ビール生みの親、村橋久成に出会う～
9月29日	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">情報発信</div> わがマチ野菜通信 vol.1 -さらさらレッド- (この後、約半年間にわたり全 11 号を発信)
10月3日	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イベント開催</div> コンテンツ・ツーリズムと知的財産・著作権
11月8日	第4回会議
11月21日	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イベント開催</div> さっぽろを『ビールの聖地』へ！アメリカポートランド市から学ぶ
12月4日	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イベント開催</div> 道内先進事例に学ぶ、北海道のビールの今！
平成 30(2018)年	
1月17・23日	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イベント開催</div> 北海道シメパフェものがたり
1月25日	第5回会議
2月16日	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イベント開催</div> アニメツーリズムと聖地巡礼 ～最新理論と地域での実践～
3月2日	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イベント開催</div> アニメ・マンガコンテンツを活用したイベントの課題と可能性
3月3日	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イベント開催</div> インターナショナル・オープンデータ・デイ 2018 札幌

# 3

## 会議開催実績

### ○ 第1回会議

日時 平成29年5月24日(水) 16:00~17:30

場所 札幌市役所本庁舎18階 第4常任委員会会議室

内容

- ・事務局(北海道総合政策部政策局、札幌市まちづくり政策局政策調整課)から、みらい会議の趣旨等について説明
- ・メンバー間の自己紹介、班決定
- ・今年度の取組について意見交換

### ○ 第2回会議

日時 平成29年6月23日(金) 10:00~12:00

場所 北海道庁本庁舎地下1階 総合政策部会議室

内容

- ・各班による企画の検討状況の発表及び意見交換
- ・先行して取り組む企画の実施を決定

### ○ 第3回会議

日時 平成29年8月31日(木) 15:00~16:30

場所 札幌市役所本庁舎地下1階 4号会議室

内容

- ・企画ごとに班を再編
- ・決定済み企画の進捗状況及び未決定の企画の検討状況の発表

### ○ 第4回会議

日時 平成29年11月8日(水) 15:00~17:15

場所 札幌市役所本庁舎19階 会議室

内容

- ・決定済み企画の進捗状況及び未決定の企画の検討状況の発表
- ・企画の実施を決定
- ・フェイスブックの効果的な活用方法の検討

### ○ 第5回会議

日時 平成30年1月25日(木) 9:00~9:40

場所 札幌市役所本庁舎地下1階 4号会議室

内容

- ・決定済み企画の進捗状況及び未決定の企画の検討状況の発表
- ・企画の実施を決定
- ・報告会・活動報告書作成に向けた今後の対応に関する情報共有

# 4

## 活動実績

### (1) わがマチ野菜を応援しよう

#### 目的

全道各地で栽培されている、特徴（形、味など）やストーリー（歴史、栽培の苦労など）のある野菜を「わがマチ野菜」と名付け、その魅力を紹介することでファンを増やし、地域の特産品として認知の向上や消費の拡大につなげていく。

#### 【わがマチ野菜の選定方法】

メンバーが独自に探したものを、各振興局に問い合わせで紹介してもらったものから、以下の条件を満たす野菜を選定。

- ・北海道内で栽培・生産されていること
- ・魅力となる特徴やストーリーがあること
- ・認知度の向上を目指していること



ケルセチンを多く含む玉ねぎ  
「さらさらレッド」(栗山町)

#### 取組内容

生産者や市町村の担当者の方々に取材を行い、わがマチ野菜の魅力や購入場所などを紹介する「わがマチ野菜通信」を作成し、みらい会議公式ホームページ等で発信。

#### ① 「わがマチ野菜通信」の作成

全11本の記事(下表)を作成し、みらい会議公式ホームページから発信した。

Vol.	わがマチ野菜	市町村	発信日
1	さらさらレッド (たまねぎ)	栗山町	H29.9.29
2	キヌア	剣淵町	H29.10.10
3	まさかり岩男 (かぼちゃ)	士別市	H29.10.19
4	フルーツほおずき	日高町	H29.11.1
5	マルメロ	北斗市	H29.11.14
6	道産さつまいも	滝川市	H29.11.29
7	スマイルボール (たまねぎ)	栗山町	H30.1.16
8	コーングリッツ	栗山町	H30.2.23
9	わかもろこし (とうもろこ)	士幌町	H30.3.7
10	オロフレトマト	壮瞥町	H30.3.12
11	ひげにんにく	日高町	H30.3.14

わがマチ野菜通信 vol.2 「キヌア」

## ② わがマチ野菜の情報発信

「わがマチ野菜通信」の発信開始を以下の媒体で周知。

- ・みらい会議フェイスブック
- ・北海道、札幌市の職員用掲示板
- ・報道機関への投げ込み  
(10/23 付の日本農業新聞に掲載)
- ・その他、少しでも多くの方に興味を持っていただけるよう、生産者の方々とのやり取りや通信作成時の苦労等、製作現場のウラ側の情報を発信する「ウラ話」や、わがマチ野菜の販売等の「イベント情報」をみらい会議フェイスブックに掲載。



フェイスブックへの投稿で配信開始を周知

## ③ 自治体や他企画との連携によるわがマチ野菜の取組紹介

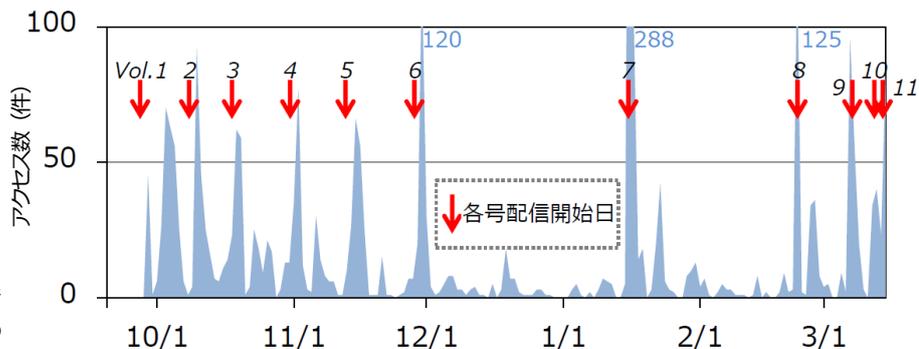
- ・北海道・札幌市の公式ツイッター
- ・野菜の地元自治体の広報誌（剣淵町、土別市）
- ・シメパフェイベント「北海道シメパフェものがたり」

北海道シメパフェものがたり  
会場でポスター掲示



## 成果

平成 30 年 3 月 15 日現在、みらい会議公式ホームページ「わがマチ野菜の紹介」記事に対して、計 2,666 回のアクセスがあった。また、配信開始の周知や、取材時のウラ話についても投稿した、みらい会議フェイスブックにおいては、投稿した計 26 回に対し、「いいね！」544 回、リーチ 11,273 回を達成している。SNS を活用した宣伝力の高い広報を実施したことにより、発信直後に多くのアクセス数を得ることができ(下図参照)、わがマチ野菜を消費者に広く周知するのに高い効果を得ることができたと考えられる。



みらい会議公式ホームページ  
「わがマチ野菜の紹介」への  
アクセス数推移

## 皆様の声

### ○ 取材先からの声

- ・北海道や札幌市のホームページ等に記事を載せていただくことは、野菜の認知度アップにかなりつながると思うのでありがたい。
- ・こちらが提供した内容の他、独自に調べた内容も加えられ、非常に厚みのあるものに仕上げられており、みらい会議の皆さんの努力を感じた。
- ・道産さつまいものことが分かりやすく紹介されているため、焼き芋販売の際にお客さんにも通信を見てもらっている。
- ・わかもろこしのPRになるので、今後、何かの機会に通信を活用したい。

### ○ 読者の声

- ・北海道に住んでいても初めて見る野菜も多く、特にフルーツほおずきは一度食べてみたい。

## 「みらい」への展望

### ○ 「わがマチ野菜」を利用した地域活性化

わがマチ野菜は、スーパー等で販売されている一般的な同種野菜とは異なる特徴があることが多く、生産や販売されている地域や期間が限られるという、希少性の高い野菜である。このような他には無い野菜を消費者に周知することにより、買うため・食べるために現地を訪れることが期待でき、生産地域の観光資源や地域経済に活力を与えるテーマのひとつとして利用できる可能性がある。

### ○ ファンを獲得するためのPR方法

「わがマチ野菜通信」では、珍しい野菜の特徴を単に紹介するだけではなく、生産者の皆さんの野菜づくりにかける想いや、栽培の工夫や苦労などのウラ側の話題を一緒に提供することで、野菜にストーリー性を持たせた紹介をすることができた。また、別企画において、わがマチ野菜を用いたパフェを専門店と共同開発し、「野菜×スイーツ」というこれまでに無い新たな組み合わせが話題となり、素材として使用されたわがマチ野菜が注目を浴びるきっかけとなった(p.17~参照)。

市場にあふれる多くの野菜に隠れた、わがマチ野菜の認知の向上や消費の拡大を図るためには、より深い愛着を持つファン（消費者）を獲得することが必要であると考えられるが、このような多面的な話題提供や、新たな食文化とのコラボレーションを紹介することにより、より高いPR効果が見込まれるのではないかと考えられる。

## (2) 温故知新！Hokkaido 偉人探索プロジェクト

### 目 的

2018年に北海道命名150年となること、また、2017年に7月17日を北海道みんなの日とする条例が制定されたことを契機とし、北海道の発展に大きく尽力しながらも、まだまだ語りつくされていないエピソードを有する偉人を、市町村・研究機関・企業等の協力を得ながら、歴史的・文化的資源として魅力発信する。

### 取組内容

札幌市主催の「いいとこ撮り北海道 2017 フォトコンサミット in Sapporo」のプログラムの一つとして、札幌駅前通地下歩行空間で、松浦武四郎及び村橋久成に関するミニセミナー及びパネル展を開催。

#### ① チ・カ・ホで出会う、Hokkaido の偉人～北海道の名付け親、松浦武四郎に出会う～

日時	平成29年9月8日(金) 16:00～16:30
場所	札幌駅前通地下歩行空間 札幌駅側イベントスペース (札幌市中央区北3条西3丁目)
講師	三浦 泰之 氏 (北海道博物館 学芸主幹)
参加者	一般 約30人
内容	北海道の名付け親であり、150年事業のキーパーソンである松浦武四郎の生涯を紹介。踏査と執筆を交えた「行動力」、「情熱」、「探究心」に言及。



#### ② チ・カ・ホで出会う、Hokkaido の偉人～開拓使ビール生みの親、村橋久成に出会う～

日時	平成29年9月11日(月) 16:00～16:30
場所	札幌駅前通地下歩行空間 札幌駅側イベントスペース (札幌市中央区北3条西3丁目)
講師	田中 和夫 氏 (作家)
参加者	一般 約30人
内容	日本初のビール製造を札幌で開始させた村橋久成の生涯を紹介。麦酒醸造所建設地を札幌に設置するまでの経緯や、七重開墾場・琴似屯田兵村でのエピソードを通じ、開拓使事業に対する並々ならぬ「情熱」に言及。



## 成 果

- ・集客の多い既存イベントの場を活用しミニセミナー形式で開催したことで、あまり偉人に興味を持っていなかった方にも気軽に参加してもらえたため、北海道の発展に尽力した偉人の魅力を多くの方に伝えることができた。併せて、北海道 150 年事業や道みんの日の周知を行うことができた。
- ・通行人へのチラシ配布のほか、サッポロビール(株)や北海道 150 年事業室との連携によりノベルティを配布し、効果的な本イベント及び北海道 150 年事業の P R を行うことができた。

## 皆様の声

- ・北海道にずっと暮らしているが、『北海道』に込められた意味を今回初めて知った。
- ・大変興味深くもっと知りたいので、松浦武四郎の取り上げられる特番は必ず視聴したい。
- ・村橋久成がこれほど様々な貢献をした人物とは知らなかった。もっと詳しい話を知りたい。

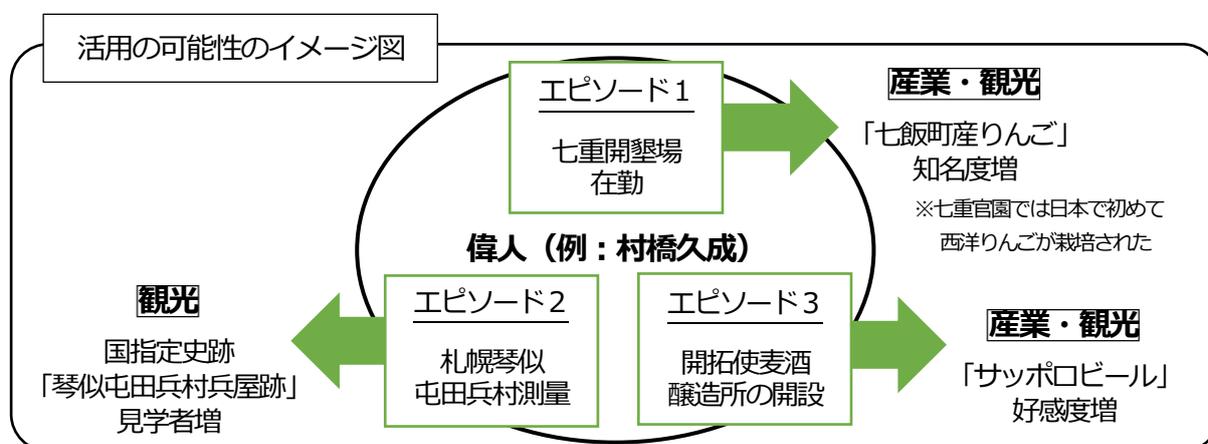
## 「みらい」への展望

### ○ 偉人の魅力に注目した地域振興

本取組では、北海道の名付け親である松浦武四郎と、命名同年の明治 2 年に設置された開拓使が行った官営事業の一つである開拓使麦酒醸造所の開設に尽力した村橋久成の 2 名を取り上げたが、その他にも、開拓神社に祭られている開拓功労者や、アイヌ文化の伝承者など、語り尽くされていないエピソードを有する偉人は北海道内にまだ多く存在している。

偉人には様々なエピソードがあり、縁のある建築物や企業、産物等が現在も残っている場合が多い。それらの歴史的文化的な活用はもちろんだが、偉人のファンの獲得により、関係する産物をより深く調べる・現地に足を運ぶといった、産業や観光への活用の可能性がある。

今後は、道内外の多くの人に偉人を知ってもらう機会を作っていくこと、そして、その魅力を広く伝えるための工夫をする必要があると考える。(インターネットを活用した偉人たちの縁の地の紹介や、ミニセミナーで使用したキャッチーな枕詞を使用しての周知等)



### (3) 続・クラフトビール王国北海道への道

#### 目 的

ビール作りの歴史や高品質のビール原料の栽培、日本でも有数のビール醸造所数を誇るなど、「ビール」における様々な強みを有する北海道において、クラフトビールは新たな観光資源となりうるだけでなく、食関連産業の発展にも有効となる可能性を有している。

このため、クラフトビール産業の育成や地域におけるクラフトビールの活用の手法を全道に発信するとともに、行政やビール事業者による新たな取り組みを促進するためのネットワークの構築を促進する。

#### 取組内容

##### ① さっぽろを『ビールの聖地』へ！アメリカポートランド市から学ぶ

日時	平成 29 年 11 月 21 日 (木) 18:30~21:00
場所	イベントスペース EDIT (札幌市中央区南 2 条西 6 丁目)
講師	青木 栄一 氏 (㈲ファーマーズ 代表取締役) 岩田 敦 氏 (札幌市清田区市民部総務企画課広聴係 係長)
参加者	道内市町村等職員、クラフトビール事業者、メディア等民間企業 計 50 人程度
内容	アメリカポートランド市のクラフトビール事情や、清田区 20 周年記念ビール「LAT43」の製作についての講演及び「ビールのまちさっぽろ」のさらなる発展のために必要なことなどについて意見交換を実施。
詳細	<ul style="list-style-type: none"><li>・ポートランドでは、ビールの自家醸造が認められており、飲食店以外でもクラフトビールが提供されているほか、原料を州内から入手することができる。</li><li>・地域を表現するオリジナルビールは、単に地元の原料や特産物を用いるだけでなく、ビールの多様性に着目し、様々な味・香りの幅を活かして、そのまちのイメージに合致する風味とストーリーを基につくることが大切。</li><li>・クラフトビールの普及のためには、取扱店舗を増やし、認知度の向上が必要である。</li><li>・日本では、醸造家からレッスンを受けるなど本格的に醸造を学ぶ機会が少なく、新規事業者が育ちにくい環境である。</li></ul>

##### ② 道内先進事例に学ぶ、北海道のビールの今！

日時	平成 29 年 12 月 4 日 (月) 18:30~21:00
場所	イベントスペース EDIT (札幌市中央区南 2 条西 6 丁目)
講師	坂口 典正 氏 (SOCブルーイング㈱ 代表取締役) 堤野 貴之 氏 (忽布古丹醸造㈱ 代表取締役) 平田 孝之 氏 (乙部阿町総務課地域振興対策室 室長)



参加者	道内市町村等職員、クラフトビール事業者、メディア等民間企業 計 50 人程度
内容	道内各地域でのクラフトビール事業に取り組む魅力やその可能性・課題についての講演や、他地域への波及を図るための意見交換を実施。
詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラフトビールの特長である「多様性」は、味や風味、原料、製造までのストーリーなど、地域の魅力を発信するために有力な食のツールである。</li> <li>・クラフトビールが普及するためには、一層の認知度向上が必要。地方においては、クラフトビールへ接する機会が少なく、新規醸造所の動きなどへ注目が集まりにくい。</li> <li>・クラフトビール事業の新規参入への金銭的なハードルが高く、個人での参入が困難。</li> <li>・クラフトビール事業者は、北海道産の原料を入手することが量や価格の面から困難であり、輸入品に頼らざるを得ない。</li> <li>・新規就農者などがビール大麦やホップを栽培し、ビール造りに活用してもらいたいと思う一方で、クラフトビール事業者との接点が少なくあまり活用できていない。反対に、クラフトビール事業者は道産原料を使いたくてもその入手に苦労しているなど、ミスマッチが見られる。</li> <li>・現状、北海道全体として「ビール」を1つの売りとして前進させようというムードは無く、大手事業者・クラフトビール事業者が独自の方向で事業を展開している。</li> </ul>

### ③ 意見交換会

日時	平成 30 年 2 月 28 日 (水) 16 : 00~17 : 30	
場所	サッポロビール(株) 北海道本社 (札幌市中央区北1条東4丁目)	
参加者	住吉 徳文 氏 (サッポロビール(株) 北海道本社副代表) ほか 2 名	
内容	みらい会議が実施したクラフトビールに関する取組を通じ、検討した課題や可能性について、サッポロビール(株)の幹部社員との意見交換を実施。	
詳細	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かつて地ビールがブームになったとき、サッポロビールは新規醸造者の相談や技術提供などを行ってきたが、日本においては醸造学を学ぶ機会は限られている。札幌は、ビールやワインの歴史があるため、大学や専門学校などで醸造を学べる環境を作り、人材育成を進めれば、注目を集めて産業が集積していくのではないかと。</li> <li>・大手メーカーは、インフラや技術などにおいて優位性があるが、クラフトビール事業者と一緒に取り組む場がないのが現状。パッケージングとしてビールをアピールする旗振り役となる存在に、行政がなり得るのではないかと。</li> <li>・札幌は、日本のビール作りの起源でもあることから、ビールを味わうだけでなく、その歴史や建物などを観光資源とするなど、街の資産としても用いることができる。</li> </ul>	

## 成 果

- ・イベントの多くの自治体参加者から、「札幌にクラフトビールをより広めたい」、「道内の観光・産業としての可能性を感じる」との意見があり、クラフトビールの観光・産業資源としての魅力や可能性を伝達できた。さらに、イベントには、道及び札幌市職員以外の自治体職員や、道内の商工・観光関連団体の職員に参加いただき、全道へ広く発信することができた。
- ・ネットワークの構築促進が功を奏し、イベントを通じ知り合った参加者同士で、自身の地域のビールを応援する企画等を始める動きが生まれた。
- ・みらい会議が、クラフトビール事業者と行政の橋渡し役となることで、イベント終了後も業界側から様々な企画提案をいただいているほか、次年度以降も企画継続を希望する声をいただいている。
- ・業界を応援していくために、行政が取り組むべきことのイメージをイベント参加者と共有できた。

## 協力・参加いただいた方々の声

- ・11月21日に開催されたセミナーにおいて、青木氏の「大きなイベントも良いが、もっと日常的な、小さなイベントを繰り返すことも大事ではないか」という創造性豊かな提案を聞いて、これまでの「自然」というキーワードに加えて、「食」と「音楽」を新たな区の魅力と位置付けている清田区には、まだまだできることがあるはずだと、日々、検討を続けているところです。毎年9月に開催するきよたマルシェを始め、今後も清田区のイベントにご期待ください。(札幌市清田区市民部総務企画課広報係長 岩田 敦氏)

- ・飲食店の立場から「ボトムアップ」の形でビールの普及に努めてきていました。下からではできることにも限界がある中で、みらい会議の企画を通じて行政の多くの方にお会いしお話しすることができました。現場の声や地方の要望など、今までの立場ではなかなか聞くことのできなかつたたくさんの貴重な意見を聞くことができました。今後は行政という「トップダウン」の力も借りて、上下両方向からビールを普及していきたいです。

「クラフトビール」はまだ人口の多い札幌でしか普及しないのが現実です。しかし、地場産業の立ち位置である醸造所を、地元の人たちが知ったり飲んだりする機会を増やせればよいと思っています。(Maltheds 坂巻 紀久雄 氏)

- ・一般的なアルコールの消費量とは逆で、道産ワイン、道産日本酒に比べて、道産クラフトビールの知名度はまだまだというイメージがあります。今後より発展していくためには単純に、好んで飲んでくれる方が増えることが一番で、そのためには認知度を上げること、作り手のこと、飲めるお店、買える場所などの情報発信が重要だと思います。「サッポロクラフトビアフォレスト」のようなイベントが街中でも開催されて一般の方が気軽に参加できるようになるといいと思います。

また、各種メディアの協力があると加速できると思います。生産量の不安がなければ、飲食店の方に知ってもらい提供店を増やすための仕掛けも効果的だと思います。(株北海道アルバイト情報社 伊藤 新氏)

### ○ 「ビールのみちさっぽろ」の再定義

札幌は、歴史、ビアガーデンやサッポロクラフトビアフォレストなどのイベント、道内クラフトビール人気の中心、ブリューパブ（醸造施設併設の飲食店）や専門店の存在など、道内において圧倒的に優位性をもつことから、「ビールのみちさっぽろ」を再定義し、札幌がクラフトビールを含むビール文化の中心地となることができるのではないかと考える。

その際に、必要な取り組むべき要素は次のようなものであると考える。

- ・従前は想定外であったクラフトビールを取り込み、札幌のビール文化の裾野の拡大を図ること。
- ・「ビールのみちさっぽろ」の下に、大小メーカーが、共に事業に取り組む場やイベントを作り、それぞれが持つ強み（大手のインフラや原料などとクラフトの技術やこだわり、発想力など）を活かすこと。（ビール横町の設置、全区オリジナルビールの作成など）
- ・ビール特区の申請や新規事業者へ金銭面・情報面でのサポートをすることで、札幌をビール醸造がしやすいまちにすること。
- ・札幌市内クラフトビールの販売店や取扱店の認証制度の制定、ビアマップの作成など積極的な広報活動を行うこと。

### ○ 醸造学科の設置

ビールはもちろん、道産の日本酒やワインへの注目が集まっている一方で、国内で醸造学を学ぶには実際に醸造所に勤めるほかには、本州の一部大学で学ぶ以外に方法はない。

そこで、道産食品のブランドを活かし、品質が高く、作り手の独創性に優れた製品を発信していく担い手作りのため、産官学が協働し、既設の学校に醸造学科を設置する。特に日本のビール作りの発祥地である札幌に醸造学科を設置することとなれば、札幌ならではの魅力的な資源を積極的に活用したものとなり、地方創生への波及効果を期待できる拠点にもなりうるのではないかと考える。

### ○ ホップの新品種開発

北海道は、日本で自生するホップが見つかった土地であるなどホップ栽培に適した土壌であり、大手メーカーは道産ホップの栽培・活用に注力している。その一方で、クラフトビール事業者は、道産ホップを使用したくても、価格や品質、収穫量などの観点から十分に確保できず、道産クラフトビールであっても、原料は海外産に頼らざるを得ない現状がある。

北海道での栽培に適した品質の高いホップ品種の開発を行うことができれば、原料から道産にこだわったビール造りがよりしやすくなり、北海道の魅力として「ビール」がさらに活用しやすくなるのではないかと考える。

## (4) 北海道コンテンツ事業研究プロジェクト

### 目 的

近年、映画「君の名は。」の大ヒットにより若者層やインバウンドを中心に盛り上がりを見せる聖地巡礼が注目されており、積極的にコンテンツを活用しようとする自治体が多くみられることから、コンテンツを観光、産業振興の両面から捉え、道内各地への持続的な好循環の波及を図る。

### 取組内容

#### ① コンテンツ・ツーリズムと知的財産・著作権

日時	平成 29 年 10 月 3 日 (火) 16:30~18:00
場所	北海道大学観光学高等研究センター メディア棟 (札幌市北区北17条西8丁目)
講師	中川 裕幸 氏 (中川国際特許事務所 弁理士)
参加者	行政職員、学生 計 40 人
内容	キャラクターやコンテンツの著作権管理の実務経験に基づいた、ライセンスビジネスに関する最新の知見と、コンテンツ・ツーリズムが抱える課題について

#### ② 「アニメツーリズムと聖地巡礼 ～最新理論と地域での実践～」

日時	平成 30 年 2 月 16 日 (金) 18:00~19:30
場所	札幌市役所本庁舎 (札幌市中央区北1条西2丁目)
講師	山村 高淑 氏 (北海道大学観光学高等研究センター 教授)
参加者	行政職員、一般事業者、学生 計 62 人
内容	コンテンツ・ツーリズムに関する国際的な最新の議論の紹介、コンテンツと地域のコラボレーション事例及びその可能性と課題



#### ③ 「アニメ・マンガコンテンツを活用したイベントの課題と可能性」

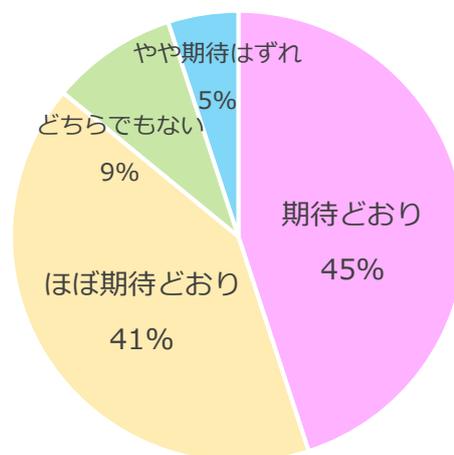
日時	平成 30 年 3 月 2 日 (金) 18:00~19:30
場所	北海道庁日本庁舎(赤れんが庁舎) (札幌市中央区北3条西6丁目)
講師	小新井 涼 氏 (北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院、(株)三木プロダクション)
パネリスト	山村 高淑 氏 (北海道大学観光学高等研究センター 教授) いがらし なおみ 氏 (㈱エカチエピルカ アニメーター・漫画家) 三守 小百合 氏 (㈲エアードライブ 編集・コーディネート業務) 館岡 隆一 氏 (北海道環境生活部文化・スポーツ局文化振興課 主査)

参加者 行政職員、一般事業者 計 53 人  
 内容 浜中町、洞爺湖及び埼玉県で開催された、アニメをテーマとしたイベントを通して、その魅力と可能性、継続の秘訣などについての分析を元にした講演や、今後の北海道のコンテンツ活用に向けたパネリストとの意見交換。



## 成 果

- ・全3回のセミナーで産・官・学の様々な立場から 150 名を超える参加者があり、コンテンツをきっかけにした新たな観光、産業振興について満足度の高い内容のセミナーとなった。
- ・理論の紹介、実例比較、トークセッションの3つの構成からセミナーを行うことで、参加者自身も考え、課題や気づき、アイデアについて豊富な議論を得ることができた。
- ・今回のセミナーで参加者、講師、パネリスト同士の意見交換や交流の有用性が明らかになったため、今後も自発的に意見交換等の交流の場が持たれることが期待される。



セミナーの満足度(H30.2.16、H30.3.2)

[n=64]

## 皆様の声

- ・北海道への誘致コンテンツとして、食、自然以外のものを作っていくべきであり、幅広い層へのアプローチをしていく事が重要だと思う。
- ・コンテンツがヒットすることにより観光客が来るという現象が起こる確率は、実際のところかなり低く、かつ、幸運にして当たったとしても、それが数十年に1度のお化けコンテンツでもない限り、観光入込の効果は一過性。それよりは、地域の名前を覚えてもらうといった効果の方が大きく、行政的にもそちらをKPIとしないと、持続的な施策となるのは厳しい。幸運にも当たって観光客が一時的に押し寄せた際、地域が享受すべき経済的利益が、無策の故に地域に落ちなかった事例は多く、そうならないようなノウハウの共有は、観光の重要な課題の一つではあるが、そもそもコンテンツに何を期待するのか、観光入込なのかシティ（エリア）プロモーションなのか産業人材育成なのか、我々も含め、地域できちんと整理することが必要と思う。
- ・「当たりやすいのはアニメ」とか「一過性になりにくいのは漫画」とか「お金を落としてくれる人が多いのは映画」のような、様々なコンテンツを経済効果から分析した話があるなら聞きたい。

- ・行政としてコンテンツをバックアップする仕組みをつくって頂けたら嬉しい。
- ・「らき☆すた」のロケーション探訪型、ロケーション創造型と異なり、その地域そのものから得られるものが無いことから、元来アニメに興味の無い地域がプレイヤーになるどころか、アニメを好きな人でも私のような考えの人はプレイヤーに成りたがらないものと考えます。講演者の方は地域そのものがコンテンツとして紹介されなくてもコンテンツ活用はできると講演されました。それは確かにその通りだとは思いますが、一番は北海道、札幌市に焦点の当てられたアニメ、漫画を大切に育て、産業振興していくことが大事だと思います。

#### ・〈観光の側面から〉

札幌の観光面での弱さはリピーター対策であることが指摘されています。「モノ消費」から「コト消費」へと嗜好が移ってきており、安全面に配慮しながらも体験型の観光を促すような取組を進めていく必要があるのではないかと考えます。特に既にリピーターが多いとされている台湾、香港、中国、タイといった国・地域への対策は必須と思われる。

#### 〈産業振興の側面から〉

コンテンツの二次利用に関する権利処理の複雑さ、困難さが課題として挙げられます。加えて、番組販売時の販売単価の安さも課題となっています。海外での国際映像商談会で良く目にする光景なのですが、いわゆる完成品である番組の販売額というのは驚くほど安く、一番組が数万円で取引されることは少なくありません。放送コンテンツの活用に関しては、オリジナルコンテンツの開発、企画等が課題解決のために必要と思われるので、独自の取組を行っているエアードライブさんには、これらの課題解決のヒントをもらえるのではないかと個人的にも注目しています。

上記に記載したことは、地方におけるコンテンツの海外展開に対する共通の課題であると考えられ、オリジナルコンテンツの制作、海外展開に対する戦略的なプロモーションの在り方の検討、実践が必要な時期にきていると感じます。

- ・ヴァーチャルユーチューバーの話を知りたいです。IT 技術や海外展開に強いアニメ・マンガ・ゲームと親和性が高いバーチャルアイドルの活用は、産業面での期待も持てますし、大きな流れにできる可能性があると思います。

## 「みらい」への展望

コンテンツ・ツーリズムについて既に地域とファンと制作者の間で取り組まれている成功事例からは、次のような展望が期待される。

### コンテンツ・ツーリズムの好循環によるもの

- ・作品のファンと地域が一体となる取組を行うことにより、地域のファンになる
- ・観光地以外のありふれた景色でも、作品に取り上げられることで旅の動機となる
- ・実際のロケ地ではなくても、似ている景観やイベント等によってファンを獲得
- ・アニメやマンガの特性として、異文化や海外にも広く訴求・共感を得ることが可能



地域における「交流人口の増加」に寄与することが期待される

一方、本プロジェクトにおける参加者や有識者との議論から明らかとなった課題は、以下の3点。

### 課題

- ・受け入れる側の地域とファンの温度差
- ・コンテンツを活用した観光、産業振興に対する経済的な面からの検討
- ・コンテンツを振興するにあたっての、自治体や地域としての関わり方

本テーマは参加者の意識調査からも、行政や一般事業者からの注目度が非常に高く、本テーマに対して地域や自治体がどのように関わって行くのかは、今後これらの課題について議論を重ねることが何よりも重要といえる。北海道には既に存在する魅力的な作品や作者の出身地も多く、こういった作品を親しむことができる場を整理することは、作者や作品のファンと地域との交流のきっかけのひとつとなるのではないかな。

また、コンテンツ産業を育成し、北海道が舞台となる作品が生まれることは、将来的にも本テーマの核となりえるものとする。コンテンツ制作企業・人材の育成に向けた意見交換や取組を、制作者や企業等との連携によって継続的に検討・実施することで、将来的にはコンテンツによる産業振興の機会を醸成することができるのではないかな。そのためにも、まずは地域、ファン、制作者が一体になって楽しめることはどんなことかを、一緒になって考えるところからはじめていくことが肝要と考える。

## (5) 新たな食文化『シメパフェ』の仕掛けを学ぶ

### 目 的

近年、飲んだ後の「締めのパフェ：シメパフェ」が札幌の夜の定番となっており、札幌市内にはたくさんさんの加盟店が協力し「札幌シメパフェ」として全国へ発信している。こうした背景（仕掛けの方法）を発信するとともに、道産食材を使用したシメパフェの新メニューを開発し、さらなる観光資源とすることを目的とした。

### 取組内容

#### ① 新作シメパフェの共同開発

札幌シメパフェを発信している「札幌パフェ推進委員会」に紹介いただいた、同委員会加盟店の「幸せのレシピ ～スイーツ～」のご協力により、新作シメパフェの共同開発を行った。本年度のみらい会議では、「わがマチ野菜(p.4～参照）」を取りあげていたことから、これらをコンセプトとしたパフェを提案し、辛味の少ないたまねぎ(スマイルボール：栗山町)や、名産品のかぼちゃ(まさかり岩男：士別市)、しょうがシロップ(岩見沢市)など道産野菜をはじめとする道産食材をふんだんに使用した新作パフェ「北国の野菜パフェ 王宮と姫の冒険」を開発した。



新作パフェ

「北国の野菜パフェ 王宮と姫の冒険」

#### ② シメパフェイベント「北海道シメパフェものがたり」

道産食材の消費拡大や北海道の観光資源開発、共同開発した新作パフェの発表を目的としたシメパフェイベントを2回開催した。

日時 平成30年1月17日(水)、1月23日(火) 19:00～20:30

場所 MIRAI.ST café & kitchen (札幌市中央区南3条西5丁目)

出演 沖 浩二 氏 (幸せのレシピ ～スイーツ～ オーナーシェフ)

磯崎 智恵美 氏 (札幌パフェ推進委員会 プロデューサー)

参加者 飲食業関係者、行政職員、一般応募参加者など 各回55人

内容 札幌パフェ推進委員会によるシメパフェムーブメントの舞台裏の紹介、共同開発した新作パフェの発表と開発秘話の紹介



### ③ 様々な媒体を活用したイベント開催の周知

札幌パフェ推進委員会と開催告知時期や広報媒体・申込み方法を調整し、札幌市広報誌「広報さっぽろ」及び広報番組「Watching Sapporo～Mr.シティのオススメ情報～」のほか、みらい会議公式フェイスブックへの投稿などによりイベント開催の周知を図った。



打ち合わせの様子



札幌市広報番組 撮影の様子



札幌市広報番組

## 成 果

- ・広報においては、北海道・札幌市の広報番組を活用したほか、札幌パフェ推進委員会の提案により『カミングアウトバラエティ!! 秘密のケンミンSHOW』（日本テレビ系）の札幌シメパフェ特集の放送日に併せてイベントの周知を行うなど、広報媒体を効果的・戦略的に活用することができた。
- ・広報さっぽろの活用や複数の民間企業や生産者と連携し、札幌シメパフェに馴染みのない方々に向けても情報を発信することができた。
- ・こうした取組が実を結び、応募者が殺到したため、急所イベント回数を増やしたほか、イベントを多くのメディアに取り上げられたことで、さっぽろシメパフェのブランディングの仕掛けや、道産食材を使用したパフェを広く発信することができた。
- ・報道掲載実績は以下のとおり(イベントがきっかけとなりシメパフェに関する内容が報道されたものを含む。)

読売新聞 (H29.12.12 朝刊、H30.1.10 朝刊)	北海道新聞 (H30.1.12 夕刊)
毎日新聞 (H30.1.19 朝刊)	朝日新聞 (H30.2.28 夕刊)
STV どさんこワイド 179 (H30.1.18)	NHK ほっとニュース北海道 (H30.3.12)
J:COM デイリーニュース (H30.1.19)	
- ・共同開発した道産食材の新作パフェは、「幸せのレシピ ～スイーツ～」大通店・すすきの店にて期間・数量限定で販売されたが、すすきの店では期間途中で在庫切れとなるほどの人気を博し、札幌シメパフェとともに道産食材の魅力も多くの人に広めることができた(売上数は約200個、売上額は約30万円)。

## 皆様の声

- 新作パフェの感想
  - ・期待を裏切らない味
  - ・甘さを調節しているので、飽きない
  - ・しっかりとスイーツになっているが、野菜の風味、香りが活かされている
  - ・フルーツのパフェより優しい甘さが良かった
  
- パフェに使用した食材（玉ねぎ、かぼちゃ、しょうが）について
  - ・玉ねぎは甘みを出すには良い食材だと思う
  - ・玉ねぎのチョコは、初めはわからないが後から効いてくる
  - ・かぼちゃの優しい甘みがよい
  - ・お替りしたいくらい
  - ・ムースがなめらかで好き
  - ・最後のしょうがシロップのおかげで後味がよく、全体も引き締まる
  - ・ジンジャージュレもおいしかったが、下の方すぎて他の食材と一緒に食べづらかったのは残念
  - ・おおよそパフェを食べているとは思えない新感覚を美味しく味わうことができた
  - ・味が薄い野菜よりは特徴のある食材のほうが、味がわかりやすく向いていると思う
  
- パフェの素材として興味がある食材
  - ・羊やヤギのミルク    ・ヨーグルト    ・チーズ    ・さつまいも
  - ・ハスカップ    ・焼きナス    ・ドライコーン    ・野菜チップス
  - ・人参、ピーマン、ほうれん草など子どもの苦手な食材
  
- その他の意見
  - ・シメパフェは値段だけで考えると高価だが、食べてみると納得すると思う
  - ・これからも応援したい
  - ・今回のようにユニークなものはビジュアル的にもインスタ映えするし、北海道らしいシメパフェ文化の象徴となるようなスイーツが出たら良い

## 「みらい」への展望

### ○ 札幌シメパフェのブランド力を活かした、公的なイベント等での活用推進

札幌シメパフェに対するマスコミの注目度は高く、公的なイベント等で活用することで高いPR効果が期待される。過去には、札幌国際芸術祭 2017 と札幌パフェ推進委員会が協働して「大風呂敷パフェ（写真）」が販売されたことがある。



大風呂敷パフェ

### ○ 札幌シメパフェのコンペティションイベントの開催

さっぽろスイーツコンペティションに代表されるような、北海道の食を盛り上げるイベントを、札幌シメパフェにおいても開催することで、参加店の商品開発や調理技術の向上をはじめ、札幌シメパフェ文化の更なる普及促進や、素材として使用する食材の周知を図ることができると考えられる。

### ○ 道産のおいしい食材を活かした北海道らしいパフェのさらなる開発

新作パフェ開発にあたって使用を検討した下表の食材は、札幌パフェ推進委員会に情報提供を行った。「道産の野菜」を使用した今回の新作パフェはイベントにおいて好評を得ることができたため、今後、北海道の食材を用いたこれまでに見られないパフェが消費者に提供されることが期待される。

生鮮品	時期	推薦振興局
塩ゆで落花生	9月～11月	空知
新品種リンゴ「ほおずり」	10月下旬	渡島
極寒完熟マンゴー	10月～11月	釧路
フルーツまたたび	10月～11月	オホーツク
アロニア	9月～10月	オホーツク
ピュアホワイト（とうもろこし）	8月～9月	空知

加工品	時期	推薦振興局
シーベリー（ソース・ペースト）	通年	空知・十勝
彩り甘納豆	通年	十勝
そのまま食べるホクホクあずき	通年	十勝
外皮まるごとあずきつ粉	通年	十勝
あまいこうじ（米麹）	通年	十勝
大麦若葉エキス末	通年	空知
ペパナッツ（かぼちゃの種）	通年	上川
酒粕 ※冬季限定品あり	通年	上川
はまなすジャム	通年	宗谷
ポップコーン	通年	檜山

## (6) インターナショナル・オープンデータ・デイ 2018 札幌

### 目 的

東日本大震災の発生を契機に情報共有の重要性が再認識されている。北海道・札幌市においてもプラットフォームが設置され、オープンデータの利活用を促進する機運が高まっていることから、参加者同士でオープンデータを元にした新しいまちづくりを目指し、共に活用方法について考え、共に作っていくきっかけとなることを目的とする。

### 取組内容

さっぽろ産業振興財団・Code for Sapporo と共催で、世界 200 以上の都市が同時開催するイベントを実施した。

#### ① インターナショナル・オープンデータ・デイ 2018 札幌

日時	平成 30 年 3 月 3 日 (土) 18:00~20:30
場所	豊平館 (札幌市中央区中島公園)
講師	古川 泰人 氏 (Code for Sapporo) 工藤 智弘 氏 (札幌市まちづくり政策局政策企画部企画課 ICT 戦略担当)
参加者	北海道・札幌市ほか道内自治体職員及び一般 計 48 人
内容	講演 オープンデータとはなんぞや? 国内外の活用事例からみる『データ』で社会を読み解く視点 話題提供 札幌市の課題と現状 意見交換 ・オープンデータの利活用が進むと市民の暮らしや意識にどんな変化が生まれるんだろう? ・よりよい暮らしやまちを創るために、 どんなデータがオープンになっていると良さそうですか?面白そうですか?



### 成 果

- ・基礎的な知識及び他都市や海外の先進的な事例について学ぶことでオープンデータの可能性を感じることができた。
- ・行政職員と市民が地域の課題や課題を解決するために必要なオープンデータについて一緒に考え、意見交換を行うことで、様々なアイデアが出されるとともに相互理解を深めることができた。

## 皆様の声

### ○ オープンデータの活用アイデア

- ・意見交換では以下のようなアイデアが挙がった(一部抜粋)。

ジャンル		内容
暮らし	身近な情報	禁煙、分煙、Wi-Fi、病院についての情報
	防犯	犯罪の発生、事故データ
	保活	保育所の空き情報
	雪	降雪量、除雪車の出勤状況、除雪状態、雪まつりの写真
まちづくり	都市計画	建物等地図データ
	公共交通	バスの位置情報・路線情報、バス停の位置情報・時刻表
	建物の性能	建物の性能評価、建物性能マップ
産業	古い情報	博物館のデータ(古地図、古文書)、各市町村史、著作権切れのデータ
	働き方改革	勤務時間(業種別、地域別、年齢別)
	マッチング	各種人材データバンク(結婚、趣味)
環境	動植物	どこにどんな植物が生えているか 鹿の地域別発生データ(交通事故防止、繁殖抑制)

### ○ どうすればオープンデータ化が進むか？

- ・オープンデータのリクエスト窓口
- ・オープンにしないと手続きが進まない仕組み
- ・行政内に内部のデータを集める専門部隊を配置
- ・話す場所やオープンデータについてのイベントがあれば
- ・市民に体験してもらうことでオープンデータについての理解や必要性が認識され、市民もオープンデータに協力するようになり、それがさらなるオープンデータ発展につながる。
- ・技術者の支援
- ・code for Sapporo で大学を巻き込む
- ・エンジニアに課題を提供する

平成 25 年 1 月の北海道・札幌市行政懇談会から早 5 年。北海道と札幌市の若手職員で構成する北海道・札幌市政策研究みらい会議は、5 年目を迎える息の長いプロジェクトへと成長を続けています。

「北海道のより良きみらい」に資する活動として、平成 29 年度は、ほとんどのメンバーが取材を行い、この 3 月まで約半年間発信を続けた「わがマチ野菜通信」の発行を中心に、北海道命名 150 年にちなんだ「北海道の偉人」、昨年度のテーマを引き継いだ「クラフトビール」、近年話題になっている「コンテンツ事業」や「札幌シメパフェ」、「オープンデータ」と多岐にわたるテーマからセミナーやイベントを企画してまいりました。

今年度は情報の発信に力を入れ、フェイスブックで自分たちの意見を積極的に発信したほか、報道機関以外にも様々な行政の広報媒体を活用したことで、より多くの方々へ取組を認知していただき、大きな反響を得ることができました。また、メンバーが所属の垣根を越えて交流することで自発的に企画間の連携が進み、わがマチ野菜を活用した新作パフェの開発など、お互いの企画の強みを活かしたことで相乗効果が生まれました。このことはプロジェクトの目的である「両組織の未来を担う人的ネットワークの充実」にもつながるものと感じています。

今年度も多くの取組を無事に終えられたことは、ひとえに企画にご協力・ご参画いただいた企業・大学・団体・他市町村の皆様、道市の関係部局やメンバーの所属部署の皆様の温かいご支援・ご協力のおかげと心より感謝しております。この活動を通じて得た経験、つながりを大きな財産として、メンバーそれぞれが今後の業務に活かしていけるよう邁進いたします。

今年度の活動はこの報告をもって終了となりますが、5 年目の区切りとなる今年度の活動の内容が道市の施策形成や事業構築に資するものとなり、さらには来年度以降のみらい会議の活動の指標となれば幸甚です。

北海道のさらなる発展に向けた様々な取組を進めていくみらい会議に今後も引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成 30 年 3 月 北海道・札幌市政策研究みらい会議



平成30年3月

北海道・札幌市政策研究みらい会議第5期